

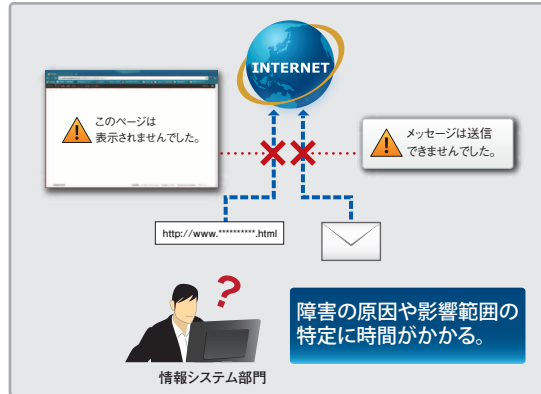
よくあるネットワークトラブルを迅速に解決!

例えば、ユーザからのこんな問い合わせに苦戦していませんか?

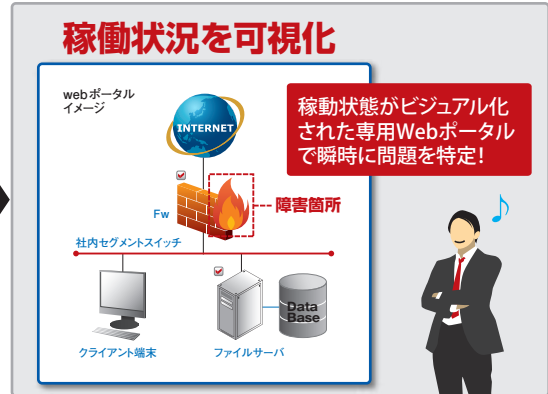
➡ インターネットにつながらない

➡ メールが送れない

➡ 本社へアクセスできない



障害状況を可視化



クラウド型 システム監視サービス

NetStare[®] for SaaS

SecuAvail
More Secure, More Available

「物理環境 / 仮想化環境」問わず、あらゆるシステム環境を可視化するクラウド型システム監視サービス



障害を瞬時に把握

障害や予兆を検知した場合、正常時と障害時を比較した結果など、**解決へ導く情報**を通知。



スムーズな障害切り分け

稼働状況がビジュアル化され、誰が見ても**一目で問題箇所を特定**。



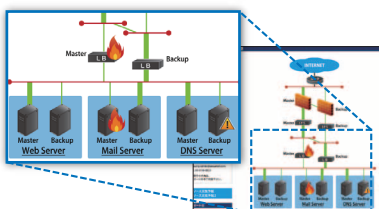
効率的に一元管理

24時間365日担当者に代わり監視システムが自社システム全体を**自動監視・自動警告**。

サービス専用のwebポータルで、「現在」「過去」「未来」のシステム状況を可視化

現在

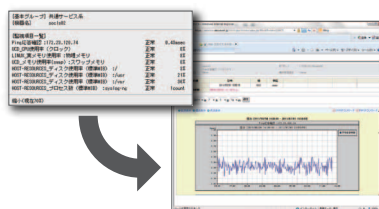
わかりやすいビジュアルで稼働状況を一目で把握



サービス対象のシステムと監視情報をリアルタイムに表現したビジュアルにより、全体のシステム構成を把握しつつ、個々の障害ポイントを一目で確認することができます。

過去

普段との違いを浮彫りにする過去のレポート



稼働履歴は全て蓄積されているため「日次」「週時」「月時」といったタームで統計的なレポートをアウトプットできます。普段との違いの明確化や、障害問題発生時の兆候を発見することができます。

未来

パフォーマンスを最適化するリソース予測レポート



過去のデータに基づいて将来のシステムリソースを予測します。1週間後、1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後、1年後におけるリソース使用を「晴れ」「曇り」「雨」のマークで表示することで、システムパフォーマンスと投資コストを最適化できます。

障害ポイントも明確に可視化するユーザポータル

システムのステータスをリアルタイムに確認できる専用のユーザポータルサイトを、お客様ごとにご用意。用途によって使い分けられる3つのレイヤーを持ち、必要な情報に素早くアクセスできます。



レイヤー1：モニタリング状況一覧

サービス対象となる機器ごとに監視項目を一覧表示します。障害発生時には、監視項目をステータスに応じた色で表示します。



レイヤー2：監視項目別状態表示

モニタリング状況一覧等の画面からドリルダウンすることにより、詳細な状態を表示します。状態推移や値比較により状況を把握できます。



レイヤー3：監視項目別レポート

監視項目ごとのレポートをダウンロード可能。バージョンや機種によらず、すべての機器のレポートを同一フォーマットで管理できます。
※PDFまたはCSVでダウンロード可能

スムーズな障害調査



アラート通知 (E-Mail)

お客様と共通の情報を見ながら障害発生時の連絡において、正常時の状態や関連する情報もあわせてご連絡します。

☑ 障害報告：ノード監視報告

【経路検索結果(Hop数/正常時/異常時)】	
1	11.1.1.11 11.1.1.11
2	22.2.2.22 22.2.2.22
3	33.3.3.33 33.3.3.33
4	44.4.4.44 44.4.4.44
5	55.5.5.55 55.5.5.55
6	10.10.10.10 10.10.10.10

正常時と障害時(今回)との
経路ルートの比較

ハザード機能

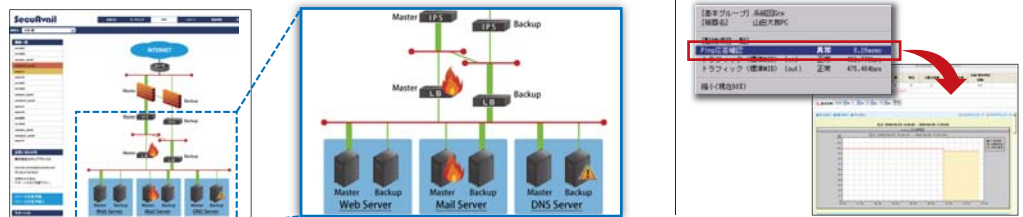
DSVでは、監視対象のシステム構成をweb上に表現し、障害の発生状態(注意/警告)にある機器にハザードマークを表示します。

トラフィックリンク機能

機器の障害がシステム全体のトラフィックに及ぼす影響：迂回経路の状態を、線の太さで示すので一目で判断できます。

ドリルダウン機能

ハザード機能で、「炎」マークが点灯した障害発生機器は、より詳細な障害の箇所をドリルダウン機能から特定することができます。



NetStare for SaaS サービスイメージ

